

花と緑の銀行だより

215号 2020.5



梨花の里 呉羽 2020.4月

目次

- ・ 県からのお知らせ 「花と緑の元気とやま創造プラン」の策定（富山県農林水産部 森林政策課）…… 2
- ・ 技術講座 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ブロンズ・フェネル（職藝学院 渡邉美保子）… 4
- ・ 緑づくりコーナー 庭木に適した富山ゆかりのサクラ フタカミザクラ（樹木医 西村正史）…… 5
- ・ とやまの花壇 一划花壇 …………… 6
- ・ この人あり 大門なでしこ会の活動と二口花ロードの歴史（射水支店 二口地方銀行 佐伯日登美）… 7
- ・ 報告・お知らせ 6月～8月の主なイベントなど …………… 7

「花と緑の元気とやま創造プラン」の策定について

富山県農林水産部 **森林政策課**

富山県では、花と緑の県づくりを進め、県民が花と緑の交流を深めながら、花と緑を大切にしていこうと、県をとりまく様々な情勢の変化に対応するため、平成30年3月に策定された県の総合計画「元気とやま創造計画」を踏まえ、これまでの「花と緑の元気とやま推進プラン」を改定し、2026（令和8）年度を目標年度とする、「花と緑の元気とやま創造プラン」を令和2年3月に策定しましたので、その概要をお知らせします。

1 グリーンプランの変遷

急激な国民経済の発展に伴う生活環境の悪化への危惧が叫ばれる中、置県90周年記念事業の一環として、「花と緑の県づくり」運動の推進母体として（財）花と緑の銀行が設立されるなど、緑化活動への高まりを受け、昭和48年9月に「グリーンプラン」が策定されました。

その後、昭和59年には「富山県グリーンプラン」が、平成3年には「新 富山県グリーンプラン」、平成13年には「富山県 花と緑の新世紀プラン」が策定されました。

平成20年3月には県総合計画の見直しにあわせ、目標指標を変更するなどの改定が行われ、平成24年9月には「花と緑の元気とやま推進プラン」が策定されました。

今回の「花と緑の元気とやま創造プラン」の策定は、前プランの策定から7年振りの改定になります。



写真1 花と緑の空間（富山市松川）

2 富山県をとりまく情勢

これまで県民による花と緑の県づくりを進めてきた結果、花と緑に彩られた快適な生活環境が着実に進んできています。

前プランが策定されて以降、2012（平成24）年には台湾からの直行便が就航したことや、大型クルーズ客船の伏木富山港への寄港、2015（平成27）年には待望の北陸新幹線の開業など、国内はもとより国外からも多くの観光客・ビジネス客が訪れるようになりました。

一方で、県の人口は、1998（平成10）年の113万人をピークに減少傾向にあります。新プランの基準年である2016（平成28）年の106万人から、目標年の2026（令和8）年までに8万人が減少し、98万人になるとの推計もあります。

さらに、65歳以上の高齢人口比率についても2016（平成28）年の30.8%から2026（令和8）年には3%増加し、33.8%になるとの推計もあることから、今後、人口減少・高齢化社会が加速化し、これまで期待されていたマンパワーの減少は避けられない状況にあります。

3 新プランの方針

新プランでは、少子高齢化の進行と人口減少社会の進展のなかで、自らの県土を自らが守り育てていくという県民意識の醸成を図り、子どもから若者、シニア世代までの世代を超えた活動の広がりを一層進めていくとともに、人生百年時代による「エイジレス社会（生涯現役社会）」を見据え、シニア世代が意欲や能力に応じて地域緑化の担い手として生涯活躍していただくなど、県民が中心的な役割を担った緑化活動を推進していくことを基本方針としています。



写真2 子供たちの花壇づくり（入善幼稚園）

4 改定の概要

前プランは、目標年が2021（平成33）年となっており、県総合計画の改定に合わせ、2026（令和

8)年に引き上げることとします。また、プランの名称も総合計画と合わせ、「推進」から「創造」を用いることにしました。

前プランの基本目標である「花と緑と人が輝く 元気とやまの創造」は、県総合計画の基本理念(目標)「みんなで創ろう! 人が輝く 元気とやま新時代」にマッチしていることから、前プランを踏襲することとしています。

施策の体系についても、これまで行われてきた活動が着実に効果を発揮していることから、前プランの流れを引き継ぐこととしています。

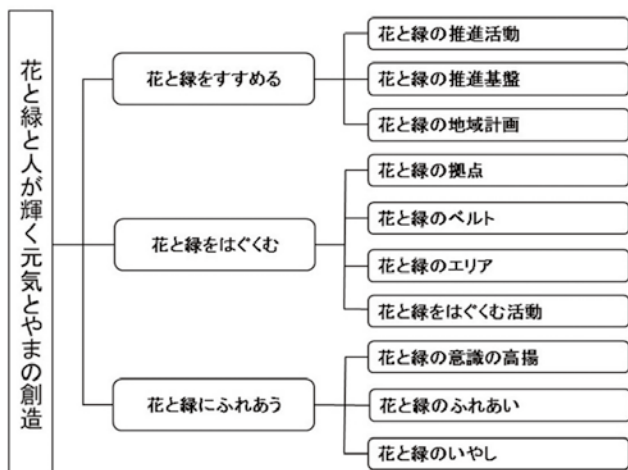


図1 新プランの施策体系

5 課題への対応

(1) 人口減少社会への対応

人口減少社会を迎え、緑化活動の担い手の確保が重要となっている課題に対しては、幅広い世代に向けた情報の発信や、若い世代の指導者の確保・育成、県の人口構成の最大層にあたる65歳以上のシニア世代への生きがいや楽しみを提供することとしています。



写真3 世代を超えた地域総出の活動(射水市黒河)

(2) 生物多様性保全への取組

絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存や生物多様性の保全が、社会的な重要度を増しているな

か、「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」により、動植物園等の設置やその管理者は、絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に寄与するよう努めなければならないことになっており、各種取り組みを進めることとしています。



写真4 立山弥陀ヶ原・大日平(中部山岳国立公園)

(3) 国内外からの入り込み者への対応

台湾からの直行便の就航、大型クルーズ客船の寄港、北陸新幹線の開業など、国内はもとより国外からも多くの観光客・ビジネス客が訪れていることに関しては、富山県の雄大な自然や、県民が主体となった県内各所の花壇、県内各地の植物園、さくらの名所、文化財公園、グリーンツーリズム等を堪能いただき、再び訪れたい県としてのイメージアップに貢献することとしています。



写真5 都市住民の農業体験(南砺市相倉)

6 おわりに

緑化活動は、教育、福祉、観光、レクリエーション、社会基盤整備、商業活動、環境保全など様々な分野に広がっており、今や県民の生活には無くてはならないものとなっています。

これからも、県民と行政が連携し、県民をはじめ本県を訪れる人々にとって魅力ある花と緑の空間をつくり、花と緑、そして人が共に生き、共に輝く、元気な富山県を創造していきましょう。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

～ 34 ブロンズ・フェンネル ～

職藝学院

教授 渡 邊 美保子

フェンネルは地中海原産の寿命の長い宿根草です。古代ギリシャのオリンピック選手はフェンネルの種を嚙んで勇気と力を得たと言われています。日本では、平安時代に中国から入り薬草として栽培されてきました。今ではハーブとしておなじみで、独特の柑橘系の香りを持つ葉や種は料理に利用されています。今回はフェンネルの園芸品種であるブロンズ・フェンネルをご紹介します。原種のフェンネルの葉は鮮やかな緑色ですが、ブロンズ・フェンネルの葉は銅のような色であることから名付けられました。

ブロンズ・フェンネルは、早春の芽出しから種ができる秋まで長く楽しめます。3月初旬、真っ黒いしっぽのようなふさふさしたものが土の中から現れます。庭ではそこだけ焦げてしまったように見えてとても目立ちます。しばらくすると細い糸状の葉のようなものがふわりと煙のように広がります(写真1)。茎が立ち上がってくる5月頃には、葉はますます黒みを増してきます。



写真1 ブロンズ・フェンネルの芽出し。4月中旬。

6月になると茎は右左に腰を振りながら、くねくねと伸びてゆくように見えます。細い糸状だった葉が太く長い針のように姿を変える。7月頃に、黄色い小さな花が傘を広げたように咲き始めます(写真2)。この頃になると花や葉に鳥のフンのようなものが付いているのに気づきます。これは黒アゲハの幼虫です。幼虫は花が盛んに咲き始める7月から8月にかけて、ますます太くなってきた針のような葉を食べて大きくなります。幼虫の姿が苦手な方は少しだけ我慢をしてください。葉を食べつくすことはありません。やがて美しい姿になって飛び立ってゆきます。

8月の姿は、まるで黄色の打ち上げ花火が連続して上がっているように見えます。そして、9月には黄色や緑色の花火になり(写真3)、10月には茶色の花火に変わり、やがて、とんでもない数の種ができます。勇気と力が必要な人は一つ嚙んでみてください。不安が消えるかもしれません。

ブロンズ・フェンネルは日当たりがよく、水はけの良い所を好みます。植え付けて1年目はみ

すばらしいのですが、冬を3回も越すと株はとても立派になります。草丈は、150cm～200cm位になります。そのため広い敷地にのびのびと植えるといいでしょう。株の周りにはアオイロフジバカマなどを植えると雑草が入りにくくなります。ただ、この組み合わせは、広い敷地を持てあましている方にお勧めします。



写真2 7月初旬。右下に黒アゲハの幼虫がいる。



写真3 9月中旬。開花している花と緑色の種になったものが混ざりあう。根元はアオイロフジバカマ。

庭木に適した富山ゆかりのサクラ ～ フタカミザクラ ～

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正 史

庭木に適したサクラについては本誌181号で、本県ゆかりのサクラで庭木に適した栽培品種を本誌206号で、それぞれ紹介しました。

今回は、本県の二上山で発見されたフタカミザクラ（写真1）を紹介したいと思います。

なお、植栽時及び植栽後の注意点は本誌181号を参照してください。

1 発見の経緯

1970年にサクラの研究者として有名な長基健治氏と船津金松氏が高岡市の二上山で野生のサクラを調査中に発見した品種です。

このサクラの学名は*Prunus* 'Kamoana' ですが、栽培品種を示す 'Kamoana' は、発見者らと親交が深く、タカオカコシノヒガンの保護・育成への尽力で有名な加茂善治氏に献名されたものです。

本来ならばフタガミザクラと命名されるべきところでしたが、発見者は県外の方でしたので、二上山を「ふたかみやま」と理解されていたようで、フタカミザクラと命名されました。少し違和感がありますね…。

2 特徴

発見当初は富山県西部の山野に多く自生している野生種のキンキマメザクラの花が八重化したものと考えられていましたが、現在ではキンキマメザクラとヤマザクラが関係した雑種であると考えられています。

花は直径3cmほどと可憐で、花弁はごく淡いピンク色です（写真2）。がく筒がとても細長く（写真3）、木や花が小型である点は野生のキンキマメザクラに似ていますが、フタカミザクラは花弁が10枚前後と八重咲きであることが大きな特徴です。

なお、富山県中央植物園内の「富山県ゆかりのサクラ」コーナーに植栽されているフタカミザクラから採取された酵母でお酒やパンが作られています。

写真1～3は2016年4月10日に富山県中央植物園で撮影したものです。



写真1 フタカミザクラ



写真2 フタカミザクラの花



写真3 フタカミザクラの花柄とがく筒（矢印）

とやまの花壇 ～一刎花壇～

富山県内には、地域の皆さんが丹精込めて育成されている素晴らしい花壇があふれています。癒しとインスタ映えのスポットに、是非、ご来訪下さい。

1 花壇の特色

一刎地区は、氷見市北西部の石川県境近く、海拔200mほどの中山間地にあり、自然と史跡に恵まれた地です。一刎花壇の前身は、旧一刎小学校の学校花壇です。小学校の統廃合に伴い、平成18年から「地域花壇」として地域の方が引継ぎ、お世話にあたっています。地区住民の「ふれあい・いこい」の場であり、県内外の見学者から「秘密の花園」として親しまれています。

<主な表彰歴>

- H5 全国花のまちづくりコンクール 農林水産大臣賞
(一刎小学校と校下地区)
- H9 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰
(一刎小学校)
- H6～17 県花のまちづくりコンクール (学校花壇)
金賞5回・優秀賞2回など連続入賞
- H18～R1 県花のまちづくりコンクール (一般花壇)
最優秀賞2回など連続入賞

2 活動概要

(1) 取組み

花壇周辺の環境整備や花苗植えは地区住民総出で行い、水やりは愛好会の会員(約40名)が輪番で行っています。また、プラグ苗の管理や定期的な追肥、花柄摘みなどは、グリーンキーパー4名が中心となり、会のメンバーとともに行っています。

今では、花は花壇だけでなく、玄関～生活道路へと広がり、訪れた方からは「ここは、花が目につき明るいね」とよく言われるようになってきました。

(2) 花壇の管理と工夫

「学校花壇としての歴史、中山間地、地域の少子高齢化・過疎化」などを背景に、創意工夫しながら取り組んでいます。

①「地域の花壇」として、愛好会会員は固定化せず、毎年、手伝える人を募り、一人ひとりができる範囲で、協力し合って作業を行うことをモットーとしています。

② 児童から受け継いだ「カンナの花」を中心に、宿根草(ロベリア、フロックス、ハナトラノオなど)や身近な草花でデザインし、立体的で見る場所によって様々な表情となる花壇を心がけています。また、プラグ苗による自家生産苗で経費を抑えています。



写真1 風土に合った宿根草や身近な草花で、立体感を創出

③ 深耕、有機肥料・牛ふん堆肥による土づくりで、保水性と肥料もちを確保し、イキイキとした花期の長い花壇づくりとし、かつ省力化に努めています。

④ 平地より平均気温が2℃低く、この地に合った宿根草を試行錯誤しながら植栽しています。



写真2 秘密の花園 2019.8月

3 花壇にこめた思い

学校花壇から引き継いだ一刎花壇は、地区住民の絆であり、誇りです。戸数80戸、住民約170人の小さな集落だからこそ、これからも一人ひとりができることを行い、家に引きこもらないで花壇作業の中で顔を合わせ、親睦を深めていきたいと思っています。

地区には一刎花壇の他、春の水芭蕉、秋のヒガンバナ、さらには氏神神社「八幡宮」の史跡など、地域を彩る宝物がたくさんあります。自治会を中心に「水芭蕉ウォーキング」、「花を見る会」などを開催していますが、この後も住民自らが地域の宝物を慈しみ、親しみ、この地を訪れるたくさんの方にも、秘密の花園の魅力をおすすめしていきたいと思っています。

(以上、一刎花壇愛好会代表・基石地方銀行頭取 山外一郎さんに、お話をお聞きました。)

○花壇の概況

- ・規模 230㎡
- ・見頃 7月～9月
- ・世話人 一刎花壇愛好会
- ・住所 氷見市一刎721 (旧小学校跡地)



大門なでしこ会の活動と二口花ロードの歴史

射水支店 二口地方銀行 頭 取

大門なでしこ会 佐伯 日登美

大門なでしこ会の活動

旧大門町の町花「ナデシコ」に因んだ「大門なでしこ会」は、現在、頭取 5 名、グリーンキーパー18名です。それぞれの地区ごとに、一般の部・花の道の部・街角部門・個人花壇等に入賞するコンクールの常連で、お互いに学び合いながら、より良い花づくりに勤しんでいます。会で行う研修は、堆肥づくりや現地見学などで全員が参加します。

なでしこ会の特徴のひとつに、特老ホームこぶし園での園芸セラピーがあります。園の中庭にある4つの花壇の植え替えは、全員で年2回、毎月の手入れを2地区ごとに交代で行っています。明るい色合いの花々は、入所の方や職員を慰め喜ばれています。

また、年1回、女性のメンバーでフラワーアレンジメントを行います。これは各家の花を持ち寄り、手作りペットボトルの花器に入所者さんと一緒に仕上げるものです。とても好評で毎回35人ほどになり、訪問先も2ヶ所に増えました。

一声掛ければみな一緒に行動できる仲間は、和気あいあい今年も花づくりに邁進していきます。

二口花ロードの歴史

平成5年に結成したボランティアグループ「翠の会」が造成したふれあい花壇(100㎡)は、地区花



写真1 二口花ロード～射水市子ども子育て総合支援センター横の県道沿いにあり、道行く皆さんを和ませています。

壇コンクールで優秀賞を連続受賞して地域に花づくりを広めました。道路沿いの花壇でもあり「一緒にしませんか」と声を掛けて、花好きのお店の方やグループの協力を得て330mの花の道「二口花ロード」となりました。

5月に花苗に十分水を含ませて植え込み、1週間は水を与えません。その後は自然との我慢比べで梅雨を迎えます。そうすると節水に強い花となり、真夏でも週2回の水やりを徹底して自然対応の水やりができます。花壇の大きさやメンバーの減員に苦労しながらも、令和元年度の県花のまちづくりコンクールで3回目の優良賞をいただきました。

今回のデザインポイントは、赤い葉ケイトウと高性アゲラタム、時にはガウラ、コキアが主流だったりと、毎年、試行錯誤しています。自慢は秋遅くまで咲く、花いっぱいの充実した花壇であることです。

また、近くの射水市子ども子育て総合支援センターに集まる若い親子と花壇の周りで交流会を行い、花の話と花のプレゼントをして、かわいい笑顔に会い、元気をもらっています。翠の会は平成30年度に県土美化推進功労賞をいただきました。



写真2 二口花ロード花壇周りでの交流会

報告コーナー

令和元年度「花とみどり・ふれあいフェア」を開催

- ・2月29日(土)から3月1日(日)の二日間、花とみどり・ふれあいフェアをファボレ(富山市)にて開催しました。国内での新型コロナウイルス感染発生を受け、予定していたイベントを大幅に変更・中止とし、アルコール消毒やマスクの着用など、感染防止対策に努めながら花と緑の展示コーナーを中心に実施しました。
- ・「雛まつりをテーマとした花飾り」や、「とやまの花、チューリップ、スイセン」などの展示コーナーでは家族連れが写真を取り合う姿など、和やかな光景が見られました。

コンテナガーデンコンテスト入賞作品

賞	市町村	地方銀行	出展団体	タイトル
大 賞	高岡市	西広谷	やまびこ花愛好会	里山の華
優秀賞	南砺市	井波	井波支所	獅子の郷 いなみ
佳 作	高岡市	立野	立野栄町花づくり会	鼓舞激励(人を奮立たせ元気づけて励ます)
佳 作	南砺市	井口	井口支所	初春の花園
佳 作	滑川市	山加積	山加積地区	棚田の散歩道



大賞 やまびこ花愛好会

* 応募総数：10作品 県内各地の「花と緑の地方銀行」から出展

○ わたしの寄せ植え入賞作品

賞	氏名	市町村	タイトル
最優秀賞	古瀬 厚子	南砺市	暮らしに花を、心豊かに、花に感謝を込めて、早春を彩る、甘い香りと共に
優秀賞	中林富美子	氷見市	春の小庭
優秀賞	宮野 裕子	砺波市	となみ野の花園
優秀賞	吉居 紀子	南砺市	春のよこび
佳作	早川 澄子	南砺市	春の訪れ暖々と
佳作	坂井 正之	南砺市	春の盛籠
佳作	谷 かず子	南砺市	春まち
佳作	菅田 桂子	富山市	春恋まつり
新人賞	中村 宏美	南砺市	みんな仲良し

* 応募総数：21作品 一般の方から出展、2作品 特別出展（審査対象外）



最優秀賞 古瀬 厚子

お知らせコーナー（6月～8月の主なイベント）

令和2年度花と緑のコンクール

コンクール名	応募締切	審査日
○ 富山県花のまちづくりコンクール		
幼稚園・保育所花壇部門	7月8日(水)	7月16日(木)
プレミアム花壇部門	7月8日(水)	7月17日(金)
学校花壇部門	7月13日(月)	7月20日(月)～21日(火)
一般花壇部門	7月20日(月)	7月29日(水)～31日(金)
花の道	7月20日(月)	8月3日(月)～4日(火)
○ 花と緑の標語コンクール	8月19日(水)	9月上旬
○ 花と緑のポスター原画コンクール	9月8日(火)	9月中旬

* 花と緑の銀行HPでご案内します。

富山県中央植物園

- 夜間開園「ゲッカビジン観賞」 6月中旬～7月下旬(開花日2日間) 19:00～21:30
 - 早朝開園「ハスの花の観賞会」 8月1日(土)・2日(日) 6:00～
 - 夜間開園「夜の熱帯植物探検」 8月21日(金)・22日(土) 18:30～21:00
- (詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは富山県中央植物園へ。参加には入園料が必要です。)

県民公園 頼成の森

- 野鳥と昆虫の観察会 7月26日(日) 9:30～12:00 定員25名 参加費無料
- (詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは県民公園 頼成の森へ。)

※ お願い！！

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各行事の中止や内容の変更を行う場合があります。ご理解の上、各行事の詳細はその都度、担当部署へお問合せ下さい。
- 頭取、グリーンキーパーの皆さまには、家庭内・職場と同様に、新型コロナウイルスなどの感染症予防対策に努め、花壇管理など花と緑の指導にあたっていただきますようお願いいたします。
- ① 3つの密(密閉空間、密集場所、密接場所)を避けましょう！
- ② 3つの咳エチケットに努め、こまめに手を洗いましょう！
- ・ マスクを着用する。
- ・ マスクがない時は、ティッシュ・ハンカチなどで口や鼻を覆う。
- ・ とっさの時は、上着の内側や袖で覆う。

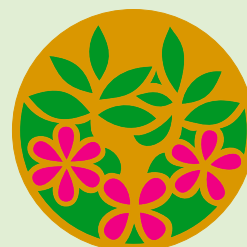


～ 射水市小杉地区の下条川沿いでは、桜並木に水仙を植栽する活動に取り組まれています。(写真撮影・提供：射水市赤井 島崎洋一さん)

編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-2425 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-4187 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/>

県民公園 頼成の森
〒939-1431 砺波市頼成156
TEL 0763-37-1540 FAX 0763-37-1450
<https://www.bgtym.org/ranjyounomori/>



花と緑の銀行だより 215号

発行日 令和2年(2020年)5月
再生紙を使用しています。